



能登半島の経験に学ぶ

～地震・液状化・大雨・大雪に対する自助・共助・公助～

■日時：2025年9月6日（土）10：30～12：00

■場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 2階 中会議室 201B
※ハイブリッド開催（現地会場 定員 100名+オンライン Zoom 配信 定員 500名）

■主催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会、防災減災連携研究ハブ（JHoP）

■協力：防災科学技術研究所

■開催趣旨：東日本大震災、能登半島地震では、人口減少や高齢化が進む地域での「災害時の課題」が明らかになりました。災害に強い地域を築くために、目指すべき災害の備えについて「自助・共助・公助」の主体と連携し議論します。

■プログラム

10:30 趣旨説明

小野 裕一（日本学術会議連携会員、東北大学災害科学国際研究所 教授）

10:40 【基調講演：能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え】

竹内 徹（日本学術会議第三部会員、防災減災学術連携委員長、東京科学大学名誉教授）

【報告：活動・事例】

10:55 「能登半島地震に学ぶ液状化リスクと対策」

三村 衛（京都大学名誉教授、一般財団法人 GRI 財団 理事長）

11:05 「その対策、本当に実現できる？ - 人口減少や地域の実情に向き合うこと -」

小山 真紀（岐阜大学 環境社会共生体研究センター 准教授）

11:15 「近年の降積雪の変化と想定される複合災害 - 令和 6 年能登半島地震への対応を例に -」

中村 一樹（防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長）

11:25 【総合討論】

＜モデレーター＞

大原 美保（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環 教授）

＜パネリスト＞

竹内 徹（日本学術会議第三部会員、防災減災学術連携委員長、東京科学大学名誉教授）

三村 衛（京都大学名誉教授、一般財団法人 GRI 財団 理事長）

小山 真紀（岐阜大学 環境社会共生体研究センター 准教授）

中村 一樹（防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長）

11:55 閉会挨拶

松浦 象平（日本学術会議 IRDR 活動推進小委員会委員、防災科学技術研究所 企画部次長）

■Zoom 接続先：事前申し込みは不要です。現地参加の定員は 100 名、オンライン参加の定員は 500 名です。
ぼうさいこくたいホームページのプログラムのページ（<https://bosai-kokutai.jp/2025/S-32/>）
に Zoom 配信用 URL を掲載いたします。

■お問合せ：防災減災連携研究ハブ事務局（国立研究開発法人防災科学技術研究所）

info-jhop@bosai.go.jp